

FDKグループは、1950年にマンガン乾電池の製造・販売からスタートして以来、電池材料に様々な工夫を加え、電池材料で培った技術を活かし電子製品・モジュール事業に進出し、Smart Energy Partnerとして、環境への影響を十分に考慮し、持続可能な社会の実現と発展に貢献しています。

財務情報

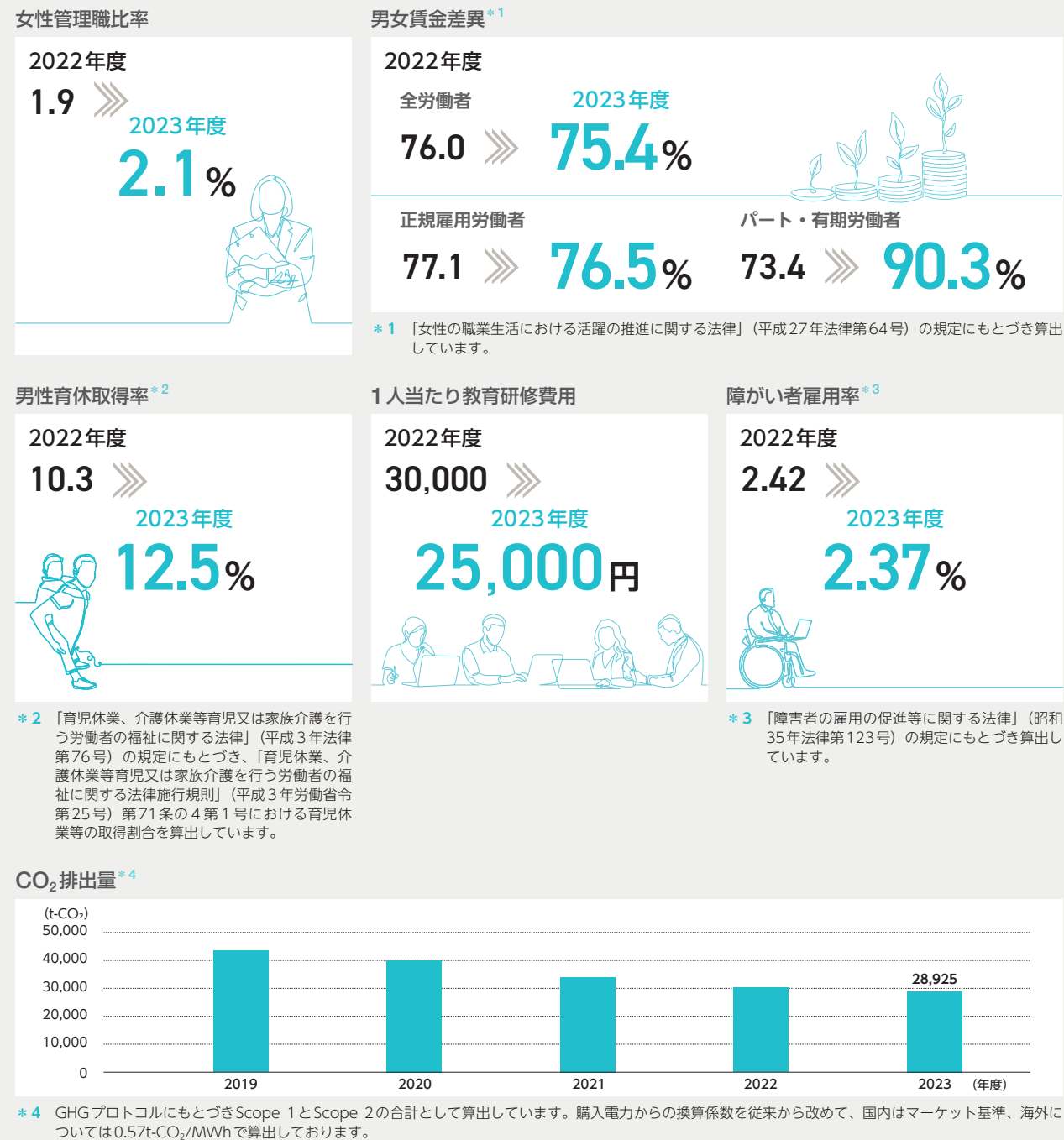


売上高は、2019年度に実施した電子事業での一部事業の譲渡以降は610億円を超える水準で推移しました。損益面では、電子事業での選択と集中による損益の改善や一部事業の譲渡ならびに転進支援制度などの収益構造の改革を進め、2021年度には20億円の営業利益を達成しました。

2022年度からは、原材料価格や水道光熱費高騰などの外部環境悪化に対するレジリエンス不足などにより利益が減少したものの、主力ビジネスが安定的に成長し、7期連続で営業損益・経常損益ともに利益計上となりました。

また近年では「誇れる会社、大切な人にすすめたい職場」、「働きがい」をキーワードに人的資本経営を積極的に展開し、多様な人材の登用や教育制度の進化などに取り組み、「人材価値の強化」「働きがい改革」「働く環境改革」に注力しています。

非財務情報



1人当たりの教育研修費用

全社の教育体系をスリム化し、効果的なカリキュラムに見直した結果、前年度よりも1人当たり教育研修費用が低下いたしました。